



林勇蔵のことを知ったのは 2020 年 9 月のことだったから、実はあまり知ったかぶりではない。丁度この頃、語り部の会では、萩往還に続いて石州街道をガイド対象にしようと画策していたのだが、山口から篠目までは過去 2 度ほど歩いていたものの小郡から山口のコースは経験者が少なく、研修の対象となったのである。当時の研修部会長に 10 名が引きつられて、小郡→湯田までを自転車で移動しながら街道の歴史を学んだ。その

時のレポートに林勇蔵について私は以下のように書いている。「上郷公民館の奥に小郡宰判の大庄屋を務めた林勇蔵碑があります。彼は、諸隊、奇兵隊に大いに協力した人物であるとともに付近の治水、樺野川改修に貢献しただけでなく、大庄屋の吉富家、瀧口家と連合して地租改正にも大きな功績を残しています。また勇蔵が資金提供して掘らせた「椎の木トンネル」があります。ここにも立ち寄りました。長さは 66m で入口と出口の高低差は 32cm、現在も水は流れていました。この水路を確保したことで仁保津地区に 10.4ha の水田が新たに作られたのだそうです。帰路、国道沿いにある林邸も見学しました。ちょっと周囲より高くなっていて、石垣はこの辺りでよく見られる結晶片岩を複雑に組み上げたもので、とても美しいものでした。ともあれ、林勇蔵についてはもっと知りたくなりました。県立図書館で適当な本を探してみるつもりです。県立図書館の蔵書を検索してみると、面白そうな本がありました。「茶乃湯問答」という本で、著者は杉民治と林勇蔵となっています。1903 年発行の本ですが、二人は一体何を話したのでしょうか。その他には「林 勇蔵日記」が小郡町史編纂室から出ています。最低でもこの 2 冊には目を通しておくことにします」

ということで、その後に読んだ彼に関する書籍をもとにこれを書いた次第。いつも偉そうに書いているが、種を明かせば、ほとんどは書籍からの受け売りである。まあ、私は幕末史研究者ではないから、それで良い。ともかく、多くの書物からガイドのネタになりそうなものを仕入れ、自分なりに咀嚼してお客様に説明する。大切なことは間違いを言わないことである。ただし、堅い話ばかりでは飽きられてしまうから、時に逸話などを織り交ぜ、不確かなことに関しては、断定するのではなく「・・・とされています」「・・・という説もあります」と言って上手くほかす。10 年の経験から得たガイド術とでも言おうか。(2022.8.31 記)



#### イラストでたどる 石州街道

05

#### 林勇蔵座像

明治維新は大田繪堂の戦勝あり、その戦勝は小郡宰判の協力にあり、その協力は即ち林勇蔵翁にあり」と称えられた大庄屋の林勇蔵の座像は仁保津下の上郷公民館に隣接して建てられている。彼は宰判内をよく取りまとめ、元治元年(1864)内証戦が始まるや、諸隊に対して軍夫派遣や資金・物資の積極的支援を行った勤王農民の筆頭だった。また「椎の木トンネル」を掘削して丘陵地帯を水田に変え、樺野川、吉敷川の河川改修を断行するなど農政面でも大いに実績を上げた。山縣有朋とは小郡勘場時代から面識があり、林から農政を学んだ彼が維新後林家を訪問した際には、弟子の礼を取って室内には上がらず、縁側に座って歓談したと伝わる。

文イラスト  
古谷眞之助